



小竹コレクション

# 阿賀町が、日本の近代化を支えた。

元文4年(1739年)の発見が始まりと伝えられ  
明治期に吉河財閥のもとで繁栄をきわめた草倉銅山  
その歴史には日本の近代化に貢献した華やかな光と  
その後各地で起こる公害の兆しが暗い影を落とす  
草倉銅山の歴史は日本の近代史そのものであり  
現代を生きる私たちに多くのことを語りかけてくれる

パネル展

## 草倉銅山の光と影

やま  
～ 鉱山に魅せられた人々～

かつて阿賀町鹿瀬にあった草倉銅山のパネル展を、阿賀町の旅館やホテル等で開催します。(観覧無料)

### ● 期間

2009 2010  
12/1 ~ 2/28

主催 新潟県  
共催 阿賀町  
協力 阿賀町観光を考える会  
企画 阿賀野川えとこだプロジェクト事務局

### ■ お問い合わせ

阿賀野川えとこだプロジェクト事務局  
TEL/FAX : 0250-68-5424  
<http://www.aganogawa.info/>

### ● パネル展開催スケジュール

期間	会場	時間
2009 12/1 ~ 12/13	三川温泉 三川館	10:00-16:00
12/17 ~ 1/3	新三川温泉 you&湯 ホテルみかわ	10:00-22:00
2010 1/7 ~ 1/24	角神温泉 ホテル角神	11:00-15:00
1/28 ~ 2/14 * 2/9は休館	御神楽温泉 みかぐら荘	10:00-20:00
2/18 ~ 2/28	かのせ温泉 赤湯	10:00-20:00

## 草倉銅山の歴史 — 繁栄と公害の兆し



現在の阿賀町鹿瀬に位置し、明治期に繁栄を極めた草倉銅山は、今から270年以上前の元文4年（1739年）草倉地内の三角沢で銅の鉱脈を発見したのが始まりと伝えられている。

維新後、明治政府が接收し、経営は津川の資産家・平田治八郎に引き継がれるが、明治8年（1875年）に古河市兵衛が経営権を取得。市兵衛はその後、草倉銅山の収益を元手に足尾銅山を買収し、古河財閥の礎を築いた。

草倉銅山には学校・病院・郵便局・派出所もあり、最盛期には約6,000名の人々が暮らし、牛乳を飲む習慣や、郡内で一番に電話が整備されるなど、当時としては先進的な生活をしていた。

しかし一方では、煙害問題や阿賀野川の魚類への被害も発生し、後に郷土史家の赤城源三郎氏は『草倉銅山こそ公害の原点である』と指摘している。

坑夫たちは落盤事故や珪肺などの危険にさらされ短命であった。加えて、閉山による失職などの不安定な生活もあり、互いの救済制度として「友子同盟」を組織していた。その絆は強く、親分と子分は互いのために誠心誠意を尽くし、どちらかが亡くなった場合には墓を建てて供養し、遺族の面倒も見たという。

大正3年（1914年）銅の産出量の減少に伴い草倉銅山が閉山されると、坑夫たちの多くは足尾銅山へと移動していった。

## 繁栄のあとの静寂 — 現在に語りかけてくるもの

阿賀町鹿瀬の草倉銅山本山跡には「大山神社跡」や採鉱事務所が建てていたとされる「石垣」、坑夫達の「無縁墓」などが残っており、当時の面影を今に伝えている。

また、向鹿瀬にある龍蔵寺の境内には、本山とは別に、約200を超える「草倉銅山坑夫の墓」（阿賀町指定文化財）が残っており、毎年7月15日には無縁仏供養がしめやかに営まれている。

日本の近代化に大きく貢献した草倉銅山の史跡は、繁栄のあとの静寂を感じさせる場所であり、「真の地域づくりとは」「持続可能な生活とは」「自然との共生とは」など多くのことについて、現在を生きる私たちに語りかけてくれる。



### 阿賀野川え〜とこだプロジェクトとは？

正式名称：阿賀野川流域地域フィールドミュージアム（FM）事業

阿賀野川流域地域の環境資源等を活用したイベントや情報発信等を通じて、新潟水俣病などの「地域の光と影」に真正面から取り組むことで、地域から失われつつある「人と人」の絆や「人と自然」の関係を紡ぎ直し、流域全体で新たな地域づくりを目指すため、流域の住民や行政、民間の団体などが手を取り合って展開するプロジェクト。

最初の足がかりとして、日本の近代化に貢献しつつも公害の予兆も見せ、現在は繁栄の後の静寂を感じさせる史跡のみとなった「草倉銅山の光と影」に注目し、これまでに紙芝居「草倉銅山物語」の制作やパネル展の開催などを展開。

